

体育教師の社会的地位に関する研究（Ⅱ）

—大 学 生 に よ る 評 価—

武 隈 晃*・岡 田 猛**

On the Social Status of the Physical Education Teacher (Ⅱ):

University Students' Grading

Akira TAKEKUMA and Takeshi OKADA

I. 緒 言

体育教師という地位に就いて、如何程にその職能に発揮しうるかは、当人の備えている専門的能力の他に、歴史的・社会的に形成されてきた当該職業に対する評価に影響されるところも大きい。本研究では、社会的地位という視角から体育教師論を展開することを目的とする。

教師という職業の社会的評価に関連する従来の研究は、その規定因に関する配慮の欠如という共通の問題点を内包している。すなわち、教師の勤務する学校段階（小学校・中学校・高等学校）や担当する教科の違い、評定者の属性や彼等が抱いている各教科・教師に対するイメージ等が社会的地位の評価に重大な影響をもたらす可能性について十分な検討が成されていない。

本研究は、体育教師の社会的地位について実証的な分析を試みる一連の研究の中で、大学生を評定者に選定した調査結果の一部を報告するものである。

II. 方 法

1986年6月～7月に鹿児島市内の大学生を被調査者とし、集合調査法による質問紙調査を行った。有効標本数は899（男子455・女子444）であった。

SSM（Social Stratification and Social Mobility）職業分類に基づき計19の職業を選び、五つの順位づけられたカテゴリー（1. 最も高い 2. やや高い 3. 普通 4. やや低い 5. 最も低い）から選択を求めた。評定されたデータは0点から25点間隔の評定値を与え、その算術平均（地位スコア）を算出した。教師については小・中・高の学校段階別に評定を求め、さらに担当教科別（国語・数学・英語・社会・理科・音楽・美術・体育・技術家庭）に同様の手続きをとった。

職業的地位の評価は、複数の要因によって規定されているものと考えられるが、本研究では教師の担当教科別地位スコアの説明要因として、教科イメージ（5項目）と教科担当の教師のイメージ（10項目）を設定し、両者の関連性について検討した。さらに、体育教師の地位スコアの高低を検討するために「地位の評定基準」「職業観（就職観）」「生活観」「スポーツ経験・意識・行動」等に

本研究は昭和61年度文部省科学研究費補助金（一般研究C課題番号61580113）の援助を得て実施された。

*鹿児島大学教育学部体育科（体育経営学） **鹿児島大学教育学部体育科（体育社会学・体育原理）

ついて回答を求めた。

Ⅲ. 結果および考察

1. 体育教師の相対的地位

19職業の地位スコアは表-1に示す通りである。教員は全体の中では中程度に位置するが、高校と中学校・小学校教員の間には三つの職業をはさむほどの違いがみられる。男子学生と女子学生のスコアを比較すると、全般的に女子のスコアが高いが、教師は警察官と並んで男女差の大きい職業となっている。男子学生による教員の評価は、かなり低いことが示されている。

表-1 地位スコア

	SSM調査	今回調査				担当教科別
		男子	女子	全体		
医師	82.7 (2)	87.4 (1)	90.3 (1)	88.8 (1)		
弁護士	87.3 (1)	85.7 (2)	88.0 (2)	86.9 (2)		
国会議員	81.1 (3)	80.4 (3)	81.3 (3)	80.8 (3)		
大会社の課長	65.9 (4)	73.5 (4)	74.3 (4)	73.9 (4)	数学 (80.3) 英語 (79.0)	
プロ野球選手	58.2 (11)	69.7 (5)	64.3 (7)	67.0 (5)	国語 (70.0) 理科 (67.3)	
市役所の課長	60.4 (10)	62.2 (6)	67.2 (5)	64.7 (6)		
デザイナー	56.3 (12)	61.8 (7)	62.4 (8)	62.0 (7)		
高等学校教員	62.9 (6)	56.2 (10)	64.5 (6)	60.3 (8)		
機械技術者	61.0 (9)	57.3 (9)	59.7 (12)	58.4 (9)		
中小企業の課長	55.9 (13)	57.8 (8)	59.1 (13)	58.4 (10)		
新聞記者	64.6 (5)	54.8 (11)	59.0 (14)	56.9 (11)	社会 (57.8)	
中学校教員	62.9 (6)	51.3 (12)	61.3 (9)	56.3 (12)		
小学校教員	62.9 (6)	50.1 (13)	61.1 (10)	55.5 (13)		
警察官	54.2 (14)	45.3 (18)	60.9 (11)	53.0 (14)		
電気機関士	51.8 (16)	48.9 (15)	53.0 (15)	50.9 (15)		
ファッションモデル	31.4 (19)	49.6 (14)	51.6 (16)	50.6 (16)		
卸売店主	52.5 (15)	47.2 (16)	48.0 (17)	47.6 (17)		
美容師	45.0 (17)	45.7 (17)	42.2 (19)	44.0 (18)	音楽 (44.5)	
農業	45.0 (17)	41.1 (19)	42.9 (18)	42.0 (19)	美術 (43.2)	
					体育 (41.7) 技家 (36.8)	

()内は順位を示す。

SSM調査(1975)では学校段階ごとの調査が行われていないため、小学校・中学校・高等学校教員は同一スコア。

注1)
1975年のSSM調査におけるスコアと比較すると、教員のスコアの低下が指摘される。SSM調査では学校段階ごとの調査が行われていないため、厳密な意味での比較対照は困難であるが、今回調査における小・中・高の平均スコアとSSM調査の差の原因は、10年という時代の変化と今回の調査対象を大学生に限定した点に帰することができよう。

教員の地位スコアを担当教科別にみると、受験教科と呼ばれる5教科のスコアが高く、特に社会を除いた4教科は他の職業と比べてもかなり高位置にあった。体育は受験5教科の次と予想されたが、9教科中8位、しかも職業別の最下位よりもさらに低いという結果であった。これは、中学生の父兄を調査対象として、体育教師が主要教科教師に準ずる位置に評価されるとする富永(1984)の報告や、高校生の父兄を対象とした調査で、非受験4教科の最高位に体育教師の位置づけられたとする報告(体育教師の社会的地位に関する研究(I)-本紀要)とかなりの乖離が認められる。以上の点は今回の調査対象の特徴を色濃く反映したものと言えよう。

2. 体育の教科イメージ

表-2に各教科のイメージスコアを示す。スコアは各イメージ項目のあてはまる割合を意味する。「自分の将来にとって大切-見田(1966)の価値類型では未来中心・自己本位の[利]の価値を測定する-」について、体育は9教科中5位であった。「得意であった」に関しては男女差が最も大きかったが、これも体育は中程度であった。「力を入れて取り組んだ」は、英語・数学に続き第3位であった。「社会の発展にとって大切(未来中心・社会本位の[正]の価値を測定する)」についてはやや低いという結果であった。「授業中楽しくさせてくれた(現在中心・自己本位の[快]価値を測定する)」は、非受験科目が上位を占め、体育は最高位であった。

中学校・高等学校時代の体育に対する大学生のイメージは「授業中楽しくさせてくれ、かなり力も入れて取り組んでいる。また、ある程度自分の将来にとって大切であると思っているが、社会の発展にとってはそれ程大切であるとは思っていない。」と要約できよう。すなわち、[正]価値よりも[快]価値を体育に付与していると解釈することができる。いずれにせよ体育に対して全体的にはむしろ好意的な教科イメージが持たれ、その傾向は男子において顕著であると理解できよう。

森(1982)は「保健体育教科については、男子学生には好意をもたれ、主要5教科に準ずる位置に布置されているが、女子学生にはそれ程好意はもたれていなかった」と報告しているが、今回の調査結果は、これより若干ポジティブなイメージが持たれていることを示すものであった。

表-2 教科イメージスコア

	国語	数学	英語	社会	理科	音楽	美術	体育	技・家
自分の将来にとって大切であると思った	3.69②	3.57④	4.08①	3.46⑥	3.62③	2.59⑧	2.56⑨	3.48⑤	3.36⑦
	4.35①	3.38⑦	3.86③	3.77④	3.09⑧	3.65⑤	3.03⑨	3.62⑥	4.19②
	4.02①	3.47⑥	3.97②	3.61④	3.36⑦	3.11⑧	2.79⑨	3.55⑤	3.77③
得意であった	2.85⑧	3.55②	3.20⑥	3.47③	3.65①	2.74⑨	2.95⑦	3.44④	3.24⑤
	3.52②	3.05⑤	2.85⑧	3.16④	2.79⑨	3.61①	2.96⑦	3.03⑥	3.34③
	3.18⑥	3.30②	3.02⑧	3.31①	3.22⑤	3.17⑦	2.96⑨	3.24④	3.29③
社会の将来の発展にとって大切であると思った	3.19⑤	3.41③	4.01①	3.32④	3.56②	2.67⑧	2.67⑧	3.07⑥	3.04⑦
	3.74③	3.29⑤	4.19①	3.77②	3.24⑥	3.11⑦	2.84⑨	3.09⑧	3.37④
	3.46③	3.35⑤	4.10①	3.54②	3.40④	2.89⑧	2.76⑨	3.08⑦	3.20⑥
力を入れて取り組んだ	2.72⑦	3.75②	3.76①	3.31⑤	3.58③	2.24⑨	2.46⑧	3.35④	2.75⑥
	3.42③	3.54②	3.58①	3.28⑤	3.01⑧	3.23⑥	2.85⑨	3.29④	3.16⑦
	3.07⑥	3.64②	3.67①	3.29⑤	3.30④	2.73⑧	2.65⑨	3.32③	2.95⑦
授業中、楽しかせてくれた	2.62⑨	2.67⑧	2.69⑦	3.14④	3.06⑤	2.94⑥	3.19③	3.96①	3.24②
	3.18⑤	2.77⑨	3.00⑦	3.06⑥	2.77⑧	3.52②	3.24④	3.58①	3.27③
	2.90⑦	2.72⑨	2.84⑧	3.10⑤	2.92⑥	3.22③	3.21④	3.77①	3.25②

スコアが高いほど、各イメージのあてはまる度合の高いことを示す。

上欄は男子、中欄は女子、下欄は全体の平均スコアを示す。

丸付の数字は各教科の順位を示す。

表-3 教師イメージスコア

	国語	数学	英語	社会	理科	音楽	美術	体育	技・家
1. 自己に厳しく責任感が強い	3.48②	3.58①	3.48③	3.30⑥	3.37④	2.91⑨	2.91⑧	3.35⑤	3.05⑦
	3.71①	3.63③	3.67②	3.40⑥	3.41⑤	3.08⑧	3.07⑨	3.50④	3.24⑦
	3.60②	3.60①	3.57③	3.35④	3.39⑥	2.99⑧	2.99⑨	3.43⑤	3.14⑦
2. 担当教科の指導だけで、学校全体の教育には無関心	2.69②	3.00⑤	2.93④	2.80③	3.04⑥	3.32⑨	3.30⑧	2.56①	3.07⑦
	2.41②	2.66⑤	2.54③	2.60④	2.68⑥	3.08⑧	3.11⑨	2.40①	2.81⑦
	2.55②	2.83⑤	2.73④	2.70③	2.86⑥	3.20⑧	3.21⑨	2.48①	2.94⑦
3. 生徒にかまわず独善的・自己満足的な授業をする	2.83④	3.01⑧	2.90⑤	2.82②	2.97⑦	3.05⑨	2.90⑥	2.70①	2.83③
	2.71②	2.85⑥	2.73③	2.80④	2.88⑦	3.02⑨	2.90⑧	2.67①	2.82⑤
	2.77②	2.93⑧	2.81④	2.81③	2.92⑦	3.03⑨	2.90⑥	2.68①	2.82⑤
4. 幅広い知識・教養を備え、豊かな人間性を感じさせる	3.73①	3.08⑥	3.40③	3.55②	3.22④	2.99⑦	3.09⑤	2.97⑧	2.94⑨
	3.97①	3.24⑤	3.62③	3.64②	3.30④	3.19⑦	3.23⑥	3.17⑧	3.17⑨
	3.85①	3.16⑤	3.51③	3.60②	3.26④	3.09⑦	3.16⑥	3.07⑧	3.06⑨
5. 担当教科についての専門的知識や技能に秀でている	3.76⑨	4.06①	3.89⑤	3.81⑦	3.95③	3.91④	3.98②	3.88⑥	3.79⑧
	4.05⑤	4.19①	4.17②	3.98⑧	4.00⑦	4.06④	4.08③	4.02⑥	3.88⑨
	3.90⑧	4.13①	4.03②	3.89⑦	3.98④	3.98⑤	4.02③	3.95⑥	3.83⑨
6. 何事も積極的で、情熱が伝わってくる	3.36④	3.37③	3.39②	3.25⑤	3.20⑥	3.01⑦	2.96⑨	3.45①	2.99⑧
	3.53③	3.51④	3.62②	3.30⑤	3.28⑥	3.15⑦	3.13⑧	3.68①	3.11⑨
	3.45③	3.44④	3.50②	3.28⑤	3.24⑥	3.08⑦	3.05⑨	3.56①	3.05⑧
7. 生徒に対するえこひいきが強い	2.89④	2.93⑤	3.07⑨	2.65①	2.77②	3.00⑧	2.95⑥	2.95⑥	2.77③
	2.92③	2.94⑤	3.05⑦	2.73①	2.76②	3.07⑧	2.93④	3.25⑨	3.04⑥
	2.90④	2.94⑥	3.06⑧	2.69①	2.76②	3.03⑦	2.93⑤	3.10⑨	2.90③
8. 教職を生活の手段として考えている	3.19⑤	3.22⑧	3.20⑦	3.20⑥	3.22⑨	3.17③	3.09①	3.15②	3.18④
	3.17④	3.17⑤	3.13②	3.21⑨	3.18⑥	3.19⑧	3.11①	3.14③	3.18⑦
	3.18⑤	3.19⑦	3.17③	3.20⑧	3.20⑨	3.18④	3.10①	3.14②	3.18⑥
9. 確固とした教育的信念や教育的理想を持っている	3.48①	3.26③	3.35②	3.26④	3.20⑥	2.99⑧	2.95⑨	3.23⑤	3.02⑦
	3.56①	3.48③	3.49②	3.35⑤	3.27⑥	3.15⑦	3.07⑨	3.36④	3.10⑧
	3.52①	3.37③	3.42②	3.30④	3.24⑥	3.07⑦	3.01⑨	3.30⑤	3.06⑧
10. 生徒からも他の教師からも離れた存在である	2.41①	2.55④	2.48②	2.49③	2.63⑤	2.95⑧	3.02⑨	2.73⑥	2.89⑦
	2.27①	2.39④	2.32②	2.41⑤	2.51⑥	2.86⑧	2.89⑨	2.37③	2.70⑦
	2.34①	2.47④	2.40②	2.45③	2.57⑥	2.90⑧	2.95⑨	2.55⑤	2.79⑦

スコアが高いほど、各イメージのあてはまる度合の高いことを示す。

上欄は男子、中欄は女子、下欄は全体の平均スコアを示す。

丸付の数字は教科担当教師の順位を示す。順位が高いほど教科担当教師に対するイメージがポジティブであることを意味する。

3. 体育教師のイメージ

表-3は担当教科別の教師イメージを示している。各項目間でバラツキはあるが、体育教師は総合的に中程度の評価を与えられていると見ることができよう。前述したように、非受験4教科は地位スコアで下位を占めていた。興味深いのは、非受験教科のうち体育を除く3教科のイメージスコアが地位スコア同様低いのに対して、体育は唯一の例外を示している点である。

各項目ごとに、他教師と比較した場合の体育教師のイメージの特徴を検討してみよう。「自己に厳しく責任感が強い」については中程度の評価であった。「担当教科の指導だけで、学校全体の教育には無関心」については否定され、最も学校全体の教育に関心を持っているとイメージされている。これは一般に体育教師が運動部活動の指導に熱心で、生徒指導に関してもしばしば中心的役割を与えられることが多いことの表れであろう。また、「生徒にかまわず独善的・自己的満足な授業をする」こともないと考えられているが、この点は教科の特性も反映しているものと思われる。

「幅広い知識・教養を備え、豊かな人間性を感じさせる」については非常に厳しい評価が下されている。「担当教科についての専門的知識や技能に秀でている」とは認知されておらず、体育教師の専門性についてはそれ程高い評価を与えていない。一方「何事にも積極的で、情熱が伝わってくる」と強く意識されているが、体育教師の一般的イメージはこのあたりにあるように思われる。ところが「生徒に対するえこひいきが強い」と評価され、特に女子の悪印象が強い。「確固とした教育的信念や教育的理想を持っている」「生徒からも他の教師からも離れた存在である」に関しては中程度と見られている。

以上の諸結果は、体育教師のイメージが「学校における貢献の度合いは高く、非常に情熱的・積極的であるが、生徒の処遇・教養の広さに問題あり」と要約できることを示している。森(1982)は、体育教師は「知識や見識の広さよりも、学校のためによく働き、たよりになる責任感の強い教師という印象がもたれて」と報告しているが、本調査もこれと近似した結果を示している。唯一「えこひいきが強い」と評された点が異なるが、両調査における格差の原因を特定化することは困難である。

4. 地位と教科イメージ・教師イメージの関連性

以上指摘した通り、体育教師の地位評価は低いにもかかわらず、教科イメージ・教師イメージとも決して非好意的とはいえない。ここでは地位スコアとイメージスコアの関連性を概観するために、各教科の両スコア平均値による順位相関係数を算出した。表-4に結果を示す。15のイメージ項目のうち有意な相関係数を示したのは4項目であった。地位スコアと「授業中、楽しくさせてくれた」は強い負の相関を示した。これは非受験4教科が地位スコアで下位を占めたのに対して、当イメージ項目では上位4位までを占めたことを反映しているが、言うまでもなく「地位の評価を高めるには生徒を楽しくさせない授業をすれば良い」とは結論できない。一方、「自己に厳しく責任感が強い」「幅広い知識・教養を備え、豊かな人間性を感じさせる」「確固とした教育的信念や教育的理想を持っている」は正の相関を示している。これは、高い地位評価が教育に対する強い意志と幅広い知識・教養に支えられているものと解釈できよう。

表-4 地位スコアとイメージスコアの関連性
-順位相関係数-

1. 自分の将来にとって大切であると思った	.233
2. 得意であった	.000
3. 社会の将来の発展にとって大切であると思った	.633
4. 力を入れて取り組んだ	.600
5. 授業中、楽しくさせてくれた	-.967**
6. 自己に厳しく責任感が強い	.767*
7. 担当教科の指導だけで、学校全体の指導には無関心	.250
8. 生徒にかまわず独善的・自己満足的な授業をする	-.180
9. 幅広い知識・教養を備え、豊かな人間性を感じさせる	.733*
10. 担当教科についての専門的知識や技能に秀でている	.583
11. 何事にも積極的で、情熱が伝わってくる	.433
12. 生徒に対するえこひいきが強い	-.033
13. 教職を生活の手段として考えている	-.333
14. 確固とした教育的信念や教育的理想を持っている	.767*
15. 生徒からも他の教師からも離れた存在である	.650

** P<.01 * P<.05

ただし1~5は教科イメージ, 6~15は教師イメージ項目。

表-5 教科イメージ・教師イメージと地位スコアの関連性
-数量化理論第Ⅰ類による偏相関係数-

	国語	数学	英語	社会	理科	音楽	美術	体育	技・家	
教科 イ メ ー ジ	1. 自分の将来にとって大切である と思った (1)	.183** (1)	.101** (9)	.163** (1)	.175** (2)	.114** (5)	.170** (2)	.087* (8)	.184** (2)	.198** (1)
	2. 得意であった (11)	.083* (11)	.114** (5)	.031	.096* (7)	.127** (3)	.071	.079* (9)	.037	.056
	3. 社会の将来の発展にとって大 切であると思った (2)	.182** (2)	.181** (1)	.135** (3)	.135** (3)	.148** (2)	.139** (4)	.190** (1)	.114** (7)	.150** (4)
	4. 力を入れて取り組んだ (6)	.125** (6)	.106** (8)	.152** (2)	.090* (9)	.169** (1)	.190** (1)	.152** (2)	.112** (8)	.134** (5)
	5. 授業中、楽しくさせてくれた (12)	.075* (12)	.111** (7)	.079* (8)	.084* (11)	.099** (8)	.140** (3)	.051	.189** (1)	.099** (11)
教 師 イ メ ー ジ	6. 自己に厳しく責任感が強い (4)	.152** (4)	.094* (10)	.123** (5)	.193** (1)	.107** (7)	.133** (5)	.106** (6)	.155** (4)	.101** (9)
	7. 担当教科の指導だけで、学校 全体の教育には無関心 (7)	.111** (7)	.126** (3)	.092* (7)	.127** (4)	.088* (13)	.038	.090* (7)	.051	.179** (2)
	8. 生徒にかまわず独善的・自己 満足的な授業をする (3)	.152** (3)	.062	.074* (9)	.086* (10)	.111** (6)	.048	.044	.132** (6)	.084* (12)
	9. 幅広い知識・教養を備え、豊 かな人間性を感じさせる (11)	.044	.079* (11)	.070	.110** (5)	.089* (12)	.107** (6)	.054	.166** (3)	.121** (6)
	10. 担当教科についての専門的知 識や技能に秀でている (5)	.144** (5)	.148** (2)	.132** (4)	.070	.072	.052	.122** (5)	.090* (10)	.114** (7)
	11. 何事にも積極的で、情熱が伝 わってくる (8)	.103** (8)	.112** (6)	.029	.109** (6)	.089* (11)	.027	.143** (3)	.101** (9)	.100** (10)
	12. 生徒に対するえこひいきが強 い (10)	.084* (10)	.050	.065	.092* (8)	.065	.095* (8)	.130** (4)	.071	.105** (8)
	13. 教職を生活の手段として考え ている (4)	.060	.120** (4)	.036	.077* (13)	.090* (10)	.046	.057	.072	.069
	14. 確固とした教育的信念や教育 理想を持っている (12)	.045 (12)	.041	.043	.082* (12)	.119** (4)	.105** (7)	.064	.035	.056
	15. 生徒からも他の教師からも離 れた存在である (9)	.100** (9)	.056	.096* (6)	.070	.096* (9)	.074* (9)	.074* (10)	.132** (5)	.161** (3)
重 相 関 係 数	.508**	.406**	.423**	.464**	.422**	.486**	.459**	.477**	.505**	

()内は各教科内での関連度の順位を示す。

** P<.01 * P<.05

次に、各教科別にどのイメージ要因が地位スコアと密接に関係しているかを検討した。表-5は林の数量化理論第Ⅰ類による重回帰分析の結果を示している。表中、()内の数字は各教科内で

の関連度の順位を示す。全教科を通して、共通して関連度が高いのは「自分の将来にとって大切であると思った」「社会の将来の発展にとって大切であると思った」「力を入れて取り組んだ」といった教科イメージ項目と「自己に厳しく責任感が強い」という教師イメージ項目であった。一方体育については次のような特徴が見られた。すなわち「幅広い知識・教養を備え、豊かな人間性を感じさせる」が他教科では地位評価とそれ程強い関係を持っていないのに対して、体育では特別の意味を持っていることを示唆している。これと反対に「担当教科の指導だけで、学校全体の教育には無関心」は他教科では密接な関連を示すのに対して、体育ではほとんど関係がない。

各教科ごとの決定係数は0.2前後であるから、地位スコアは必ずしも教科および教師イメージで十分に説明されるとは言い難い。言い換えれば、地位の規定因として教科・教師イメージだけでは不十分と言わざるを得ない。しかしながら、そうした限界を持ちながらも、以上の結果は各教科教師の地位評価に当っては、ある程度共通する準拠枠が存在することを示唆するとともに、体育にかなり特徴的な視点が存在することも明らかにしていると言えよう。

5. 生活観と地位スコア

表-6 は見田 (1966) の価値類型に準拠した四つの生活目標の中から選択を求めた結果である。男女とも [愛] 価値を志向する者が最も多く、[利] [快] がこれに続く。こうした傾向は、1983年のNHK世論調査部の調査報告 (年代別) とほとんど同じであった。一方、表-7 は「仕事中心か、それ以外の生活中心か」という勤労観の視点から生活観を把握しようとしたものである。「仕事も仕事以外の生活も同じくらい大切にしたい」とする者が全体の7割を越え、その傾向は男女ともほとんど同じであった。なお、体育教師の地位スコアの高低との関連性を検討するために、 χ^2 検定を行ったが、「生活目標」「勤労観」いずれも有意ではなかった(それぞれ $\chi^2=3.60$, d. f. = 3, $\chi^2=3.18$, d. f. = 4)。従って、生活観は体育教師の地位を直接規定する要因とは言えない。

表-6 生活観 (生活目標)

	全 体	男 子	女 子
1. その日その日を自由に楽しく過ごす [快]	189 (26.7)	98 (27.2)	91 (26.2)
2. しっかりと計画を立てて、豊かな生活を築く [利]	201 (28.4)	102 (28.3)	99 (28.5)
3. 身近な人たちと、なごやかな毎を送る [愛]	274 (38.7)	136 (37.7)	138 (39.8)
4. みんなと力を合せて、世の中をよくする [正]	43 (6.1)	24 (6.7)	19 (5.5)

() 内は%

表-7 生活観 (勤労観)

	全 体	男 子	女 子
1. 仕事中心の生活をしたい	11 (1.6)	5 (1.4)	6 (1.7)
2. どちらかといえば仕事中心の生活をしたい	39 (5.5)	26 (7.2)	13 (3.8)
3. 仕事も仕事以外の生活も同じくらい大切にしたい	517 (73.0)	253 (70.1)	264 (76.1)
4. どちらかといえば仕事以外の生活を中心に生活したい	109 (15.4)	55 (15.2)	54 (15.6)
5. 仕事以外の生活を中心にした生活したい	32 (4.5)	22 (6.1)	10 (2.9)

() 内は%

6. 職業観（就職観）と地位スコア

表－8はそれぞれ特性を示した職業に就職を希望する度合を表している。男女とも1位が「仲間と楽しくやれる職業」2位が「お金がもうかる職業」であり、人間関係志向的・実利主義的な大学生の特徴を明らかにしている。男女の違いを強いて指摘するなら、女子において「収入の安定」「世の中への奉仕」が重視される点であろう。

職業観と体育教師の地位スコアの関係は表－9に示されている。統計的には、体育教師の地位スコアを平均（41.7）より高く評価した者と、平均より低く評定した者の2群に分類し、職業の特性を記述した各項目のスコアに両群間で差が認められるかを検定した。全体では9項目中6項目で有意な差がみられた。体育教師を高く評価した者は「収入が安定し、世の中に奉仕し、仲間と楽しくやれる」職業を志向する傾向にあった。逆に体育教師を低く評定した者は「お金がもうかり、世の中を動かし、世間から注目をあびる」職業を志向する傾向にあった。かかる点は、一般的に認識された体育教師の職業的特性（体育教師は職業上、お金をもうけ、世の中を動かし、世間から注目をあびることはむずかしいが、収入は安定し、世の中に奉仕し、仲間と楽しくやれる可能性の高い職業であろう）を反映するものとみられ興味深い。

しかし、以上の点は性別に検討するとかなり様相を異にする。すなわち男子においては、体育教師の地位を高く評定した者は「自分の力でやれ、仲間と楽しくやれる」職業を、低く評定した者は「お金がもうかる」職業を、それぞれ志向する傾向にあったが、女子においては両群間で有意な差が認められた項目はなかった。

こうした傾向は、職業観を体育教師の地位評価の規定因として識別しうる可能性を示唆するものである。ただし女子においては、その指摘は受容されない。

表－8 職業観

	全 体	男 子	女 子
1. 平凡でも収入が安定している職業	2.92 (5)	2.71 (6)	3.14 (3)
2. 人に使われず、自分の力でやれる職業	3.12 (3)	3.21 (3)	3.02 (4)
3. 人を助けたり、世の中に奉仕する職業	2.88 (7)	2.74 (8)	3.02 (5)
4. 労働時間のなるべく少ない職業	2.91 (6)	2.99 (5)	2.83 (7)
5. 人から尊敬される職業	3.02 (4)	3.05 (4)	3.00 (6)
6. お金がもうかる職業	3.28 (2)	3.39 (2)	3.16 (2)
7. 世の中を動かしていく職業	2.50 (8)	2.78 (7)	2.21 (9)
8. 世間から注目をあびる職業	2.44 (9)	2.62 (9)	2.25 (8)
9. 仲間と楽しくやれる職業	3.56 (1)	3.49 (1)	3.63 (1)

数字は特性を記述した職業に就職を希望する度合いを示す。
()内は順位を示す。

表-9 職業観と体育教師の地位スコア

職業観	地位スコア			男子			女子		
	[高]	[低]	差	[高]	[低]	差	[高]	[低]	差
1. 平凡でも収入が安定している職業	3.01	2.88	>	2.74	2.74		3.19	3.14	
2. 人に使われず、自分の力でやれる職業	3.13	3.09		3.29	3.15	>>	3.02	2.99	
3. 人を助けたり、世の中に奉仕する職業	2.95	2.80	>	2.78	2.70		3.06	3.00	
4. 労働時間のなるべく少ない職業	2.94	2.97		3.00	3.06		2.89	2.77	
5. 人から尊敬される職業	3.04	3.11		3.04	3.13		3.04	3.06	
6. お金がもうかる職業	3.24	3.42	<<	3.36	3.50	<<	3.16	3.27	
7. 世の中を動かしていく職業	2.41	2.60	<<	2.76	2.77		2.17	2.26	
8. 世間から注目をあびる職業	2.36	2.50	<	2.58	2.62		2.21	2.27	
9. 仲間と楽しくやれる職業	3.65	3.50	>>	3.60	3.43	>>	3.68	3.63	

<< 体育教師の地位を平均スコアより高く評定した者のグループよりも、平均スコアより低く評定した者のグループの方が当該特性職業を希望する度合いが高いことを示す (P < .01)

< 同上 (P < .05)

>> 体育教師の地位を平均スコアより低く評定した者のグループよりも、平均スコアより高く評定した者のグループの方が当該特性職業を希望する度合いが高いことを示す (P < .01)

> 同上 (P < .05)

7. 地位の評定基準と地位スコア

表-10はそれぞれの職業の地位を評定する際に、各基準を重視した程度を示している。男女とも最も重視したのは「要請される能力や技能の高さ」であった。それ以外の基準についても大きな性差はみられず、以下「責任の大きさ」「収入の高さ」「社会に対する貢献の大きさ」「社会的緊要度」と続いている。言うまでもなく、これらの基準は地位スコアで上位を占めた職業に共通する特性を記述するものである。

地位の評定基準と体育教師の地位スコアの関係性を分析した結果、いくつかの興味ある傾向が明らかにされた(表-11)。なお統計処理の方法は表-9と同様である。全体では、体育教師の地位を高く評定した者は「社会に対する貢献の大きさ」「社会的緊要度」「能力や創造性を発揮する機会の多さ」を重視し、反対に低く評定した者は「収入の高さ」「収入の安定性」「学歴の高さ」を重視する傾向にあった。こうした傾向は男子において顕著であるが、一方女子においては「学歴の高さ」が低く評定した群で有意に高くなっている他は差が認められなかった。

表-10 地位の評定基準

	全 体	男 子	女 子
1. 収入の高さ	2.87 (3)	2.90 (2)	2.84 (3)
2. 収入の安定性	2.67 (6)	2.65 (6)	2.70 (6)
3. 責任の大きさ	2.88 (2)	2.76 (3)	2.99 (2)
4. 学歴の高さ	2.43 (10)	2.36 (11)	2.51 (10)
5. 社会に対する貢献の大きさ	2.74 (4)	2.68 (4)	2.80 (5)
6. 自律性の高さ	2.38 (11)	2.40 (10)	2.37 (11)
7. 要請される能力や技能の高さ	2.97 (1)	2.94 (1)	3.00 (1)
8. 社会的緊要度	2.73 (5)	2.65 (5)	2.82 (4)
9. 能力や創造性を発揮する機会の多さ	2.63 (7)	2.64 (7)	2.63 (8)
10. 世間から受ける尊敬の大きさ	2.62 (8)	2.55 (8)	2.69 (7)
11. 社会に対する影響の大きさ	2.56 (9)	2.54 (9)	2.59 (9)

数字は職業の地位を評定する際に、各項目(基準)を重視した程度を示す。

()内は順位を示す。

表-11 地位の評定基準(体育教師の地位スコア高低別)

評定基準	地位スコア			男 子			女 子		
	[高]	[低]	差	[高]	[低]	差	[高]	[低]	差
1. 収入の高さ	2.88	3.14	<<	2.83	3.21	<<	2.92	2.99	
2. 収入の安定性	2.71	2.85	<	2.61	2.87	<<	2.79	2.80	
3. 責任の大きさ	2.94	2.89		2.79	2.83		3.04	3.00	
4. 学歴の高さ	2.42	2.71	<<	2.27	2.64	<<	2.52	2.85	<<
5. 社会に対する貢献の大きさ	2.82	2.86	>	2.77	2.61		2.85	2.84	
6. 自律性の高さ	2.42	2.34		2.51	2.29	>	2.36	2.45	
7. 要請される能力や技能の高さ	3.03	3.06		2.98	3.01		3.07	3.16	
8. 社会的緊要度	2.83	2.69	>	2.73	2.64		2.90	2.81	
9. 能力や創造性を発揮する機会の多さ	2.71	2.58	>	2.82	2.56	>>	2.65	2.63	
10. 世間から受ける尊敬の大きさ	2.65	2.75		2.53	2.70		2.73	2.83	
11. 社会に対する影響の大きさ	2.59	2.64		2.55	2.62		2.62	2.68	

<< 体育教師の地位を平均スコアより高く評定した者のグループよりも、平均スコアより低く評定した者のグループの方が当該評定基準を重視していることを示す (P < .01)

< 同上 (P < .05)

>> 体育教師の地位を平均スコアより低く評定した者のグループよりも、平均スコアより高く評定した者のグループの方が当該評定基準を重視していることを示す (P < .01)

> 同上 (P < .05)

8. スポーツ経験・意識・行動と地位スコア

「高校時代の運動部への入部経験(入っていた・入っていたが途中でやめた・入ったことはない)」「高校時代の体育授業の待ち遠しさ(待ち遠しかった・なければよかった・どちらでもない)」「高校時代の体育の成績(良いほうだった・普通だった・悪いほうだった)」「現在の体育系サークルへの参加(入っている・入っていない)」「現在の体育授業以外の運動機会(週に1回以上ある・たまにある・ほとんどない)」「スポーツの価値意識(快・利・愛・正)」「運動の好き嫌い(好き・嫌い・どちらでもない)」の各アイテム各カテゴリーへの回答傾向と地位スコアの関連性について χ^2 検定を行った。なお地位スコアのグルーピングは表-9と同様の方法である。

結果は表-12の通りである。男女で全く異なる様相を示したため、男女別に考察を加えることに

する。男子においては唯一「現在の体育系サークルの参加」と地位スコアの間に関連が認められ、現在体育系のサークルに所属していない者の方が体育教師の地位を高く評価する傾向にあった。一方女子においては「高校時代の運動部への入部経験」「運動の好き嫌い」で有意な相関が認められ、高校時代運動部に所属していた者の方が、あるいは運動を好きな者の方が体育教師の地位を高く評価する傾向にあった。さらに危険率を10%にまで緩和すれば、「高校時代の体育授業の待ち遠しさ」「高校時代の体育の成績」「スポーツの価値意識」も地位スコアとの関連性を認めることができる。その傾向は、地位を高く評価する者は、高校時代授業を待ち遠しく思い、高校時代の体育の成績が良く、スポーツに〔愛〕価値（スポーツでは意義があるのは、チームメイトと協力して充実した毎日を送らせてくれるからである）を付与する者が相対的に多いのに対して、低く評価する者は、高校時代授業を待ち遠しく思わず、高校時代の体育の成績が良かったとはいえ、スポーツに〔利〕価値（スポーツで意義があるのは、たくましい身体や体力をもたらしてくれるからである）を付与する者が相対的に多いというものであった。

以上の考察は、スポーツ経験・意識・行動等の要因が女子において体育教師の地位の規定因であることを明らかにするものであろう。

表-12 スポーツ経験・意識・行動と体育教師の地位スコアの関連性

	全 体			男 子			女 子		
	χ^2	d. f.	p <	χ^2	d. f.	p <	χ^2	d. f.	p <
1. 高校時代の運動部への入部経験	6.56	2	.05	0.40	2	—	19.10	2	.01
2. 高校時代の体育授業の待ち遠しさ	0.71	2	—	0.62	2	—	5.91	2	—
3. 高校時代の体育の成績	3.56	2	—	4.18	2	—	5.75	2	—
4. 体育系サークルへの参加	7.99	1	.01	4.78	1	.05	0.85	1	—
5. 体育授業以外の運動機会	3.06	2	—	1.87	2	—	0.51	2	—
6. スポーツの価値意識	7.97	3	.05	1.66	3	—	7.01	3	—
7. 運動の好き嫌い	3.67	2	—	1.47	2	—	8.60	2	.05

9. 体育教師の地位スコアを規定する要因の検討

これまで、地位の評価を左右するであろうと仮設されたいくつかの要因と地位スコアの関連性について考察を進めてきた。最後に、本研究で取り上げた各要因（属性・生活観・地位の評定基準・教科イメージ・教師イメージ・スポーツ経験等）と地位スコアの相対的な関連性の強さを検討するために、数量化理論第I類による重回帰分析を試みた。表-13には各カテゴリーごとの地位スコア（平均値）及び各説明変数の関連性の強さを示す偏相関係数を掲げてある。また、表-14は要因ごとにステップワイズに投入することによって算出された、各ステップごとの重相関係数を示している。偏相関係数において上位を占める変数を含むのは「教師イメージ」「教科イメージ」及び「属性」の各要因群であった。また、表-14に示される通り、重相関係数は第Iステップ(属性)で.259を示す他、第Vステップで教科イメージを、第VIステップで教師イメージを投入したときに、飛躍的に上昇している。以上の諸結果は、教科イメージ・教師イメージと評定者の属性、特に性別が体育教師の地位スコアと密接に関連していることを明らかにするものと言えよう。^{注3)}

表-13 体育教師の地位スコアを規定する要因
-数量化理論第I類による分析-

地位スコアの説明変数		C	平均	偏相関	地位スコアの説明変数		C	平均	偏相関
属性	性別	男 女	36.4 47.3	.119*	教科	自分の将来に大切	I II III	46.2 40.4 28.6	.161**
	専攻	理系 文系 教育	36.1 39.0 48.5	.071		得意	I II III	43.0 42.1 39.2	.030
生活観	生活目標	快 利 愛 正	42.6 42.6 39.7 47.2	.109**	イメージ	社会の発展に大切	I II III	46.4 42.0 35.6	.046
	勤労観	A B C D E	43.2 38.5 42.3 40.4 41.4	.043		力を入れて取り組んだ	I II III	44.5 43.0 34.0	.083*
職業観	平凡でも収入が安定	1 2 3	43.7 41.1 41.1	.033	教師	授業中楽しくさせてくれた	I II III	41.9 40.8 42.6	.083*
	人に使われず自分の力で	1 2 3	41.4 42.3 40.4	.005		自己に厳しく責任感が強い	I II III	46.0 41.7 29.1	.177**
業観	人を助け世の中に奉仕	1 2 3	45.5 42.0 38.7	.005	イメ	学校全体の教育に無関心	I II III	44.1 40.1 37.4	.061
	労働時間が少ない	1 2 3	41.3 41.5 42.8	.106**		独善的・自己満足的な授業	I II III	45.4 41.0 35.4	.062
地位の評定基準	人から尊敬される	1 2 3	40.5 41.9 43.2	.035	ジ	幅広い知識教養・豊かな人間性	I II III	48.4 43.2 32.2	.140**
	お金がもうかる	1 2 3	39.0 42.7 48.6	.034		専門的知識・技能に秀でる	I II III	43.0 39.0 39.3	.046
地位の評定基準	仲間と楽しくやれる	1 2 3	43.4 39.5 33.9	.054	スポーツ経験・意識・行動	積極的で情熱が伝わってくる	I II III	45.4 39.7 32.4	.013
	収入の高さ	① ② ③	37.4 41.8 47.1	.061		不公平な処遇	I II III	44.0 42.9 39.2	.047
地位の評定基準	収入の安定性	① ② ③	37.8 40.9 44.9	.072	イメ	教職を生活の手段視	I II III	43.9 41.4 40.8	.035
	責任の大きさ	① ② ③	41.5 43.0 40.4	.068		教育的信念・教育的理想	I II III	45.9 41.2 33.3	.060
地位の評定基準	社会に対する貢献の大きさ	① ② ③	42.2 43.5 39.7	.065	イメ	生徒・教師から離れた存在	I II III	44.8 40.6 36.3	.047
	要請される能力や技能の高さ	① ② ③	42.4 41.1 42.2	.024		高校時代の運動部入部経験	i ii iii	43.9 42.9 39.8	.024
地位の評定基準	社会的緊要度	① ② ③	43.8 41.8 40.6	.018	イメ	高校時代の体育授業への期待	a b c	42.5 41.1 41.4	.016
	能力や創造性を発揮する機会	① ② ③	47.8 41.2 40.0	.103**		高校時代の体育の成績	A I U	42.6 42.4 36.4	.047
地位の評定基準	世間から受ける尊敬の大きさ	① ② ③	40.1 40.7 43.6	.038	イメ	体育系サークルへの参加	X Y	38.9 43.2	.067
	社会に対する影響の大きさ	① ② ③	40.7 40.7 43.1	.074		体育授業以外の運動機会	α β γ	40.5 44.5 41.6	.048
地位の評定基準					イメ	スポーツ価値意識	快 利 正 愛	40.2 37.7 45.9 41.0	.051
						運動の好き嫌い	x y z	42.7 39.2 39.7	.050

** p < .01 * < .05

平均：各カテゴリーごとの地位スコアの平均値

C：各説明変数のカテゴリー（数字・符号は下記の通り）

A~E：それぞれ表-7の1~5に対応 1：是非就きたい 2：できれば就きたい 3：あまり・全く就きたくない

①：非常に重視 ②：やや重視 ③：あまり・全く重視せず I：好意的イメージ II：中程度 III：非好意的イメージ

i：入部 ii：退部 iii：入部せず a：期待大 b：中程度 c：期待せず A：良い I：普通 U：悪い

X：所属 Y：非所属 α：週1回以上 β：たまに γ：ほとんどない x：好き y：どちらでもない z：嫌い

表-14 投入ステップごとの重相関係数

s t e p	要 因	重相関係数
I	属 性	.259
II	生 活 観	.278
III	職 業 観 (就 職 観)	.310
IV	地 位 の 評 定 基 準	.366
V	教 科 イ メ ー ジ	.453
VI	教 師 イ メ ー ジ	.530
VII	ス ポ ー ツ 経 験 ・ 意 識 ・ 行 動	.539

IV. ま と め

以上の考察は、大学生の目を通して体育教師の姿を再検討するものであった。教師一般についての分析や、地位評価に関連する要因相互の関連分析に不十分な点があったことは否めない。かかる問題点を今後の課題として指摘することにし、本研究で明らかにされたことがらを再確認することによってまとめに替えたい。

(1) 教員の地位は中程度と評価されたが、教科別に分析すると、体育教師の地位の低さは明白であった。

(2) 体育の教科イメージはやや好意的であり、その傾向は男子において顕著であった。また、見田(1966)の価値類型における[正]価値よりも[快]価値を体育に付与しているものとみられた。

(3) 体育教師のイメージは、概ね「学校における貢献の度合いは高く、非常に情熱的・積極的であるが、生徒の処遇や知識・教養の広さに問題あり」と要約された。他教科の教師イメージと比べると、総合的には中程度の好意度が持たれているものと推測された。

(4) 各教科別に教師の地位を評定する際に、教科イメージ・教師イメージが準拠枠になっていることが示唆された。しかし、体育教師を評定する際には、教師の「知識や教養の広さ」が他教科の場合より重要であった。逆に、他教科で重視された「学校全体の教育への関心」の程度は、体育の場合あまり関係がなかった。

(5) 職業観(就職観)と地位の評定基準は、地位スコアとの関連性が認められたが、それは男子においてのみであった。

(6) スポーツ経験・意識・行動は、女子においてのみ地位スコアとの関連性が示唆された。

(7) 各要因(属性・生活観・地位の評定基準・教科イメージ・教師イメージ・スポーツ経験等)と地位スコアの相対的な関連性の強さを検討したところ、教科イメージ・教師イメージ及び評定者の属性、特に性別が体育教師の地位と密接に関連していることが明らかにされた。

注

注1) 詳細は富永(1979)を参照されたい。

注2) 見田(1966)は、〈現在〉中心対〈未来〉中心という時間的パースペクティブと、〈自己〉本位対〈社会〉本位という社会的パースペクティブから「欲求を充足させる性能」と定義される価値を四つに類型化する。即ち〈現在〉中心〈自己〉本位の価値としての快-苦、〈未来〉中心〈自己〉本位の価値としての利-害、〈現在〉中心〈社会〉本位の価値としての愛-憎、〈未来〉中心〈社会〉本位の価値としての正-邪である。本研究では、この[快][利][愛][正]という価値の類型に準拠し、教科イメージ・生活目標・スポーツの価値意識に関する測定項目を構成した。

注3) 表-13に示される結果は、概ね各要因別の分析と整合的であった。しかしながら、表-13で地位スコアと生活目標の偏相関係数が.109と有意($P < .01$)であったのに対して、要因別の分析(χ^2 検定)では有意な相関は示さなかった。両分析の不整合の原因は地位スコアの扱い方の違い(連続変数か非連続変数か)にもあるが、この点については再検討が必要と思われる。生活目標等の生活観や職業観等は、職業的地位の直接の規定因というよりは、地位の評定基準等への影響を通して、間接的に地位評価に関与すると見るべきであろう。「Ⅳ. まとめ」に述べたように、地位評価に関連する要因相互の連関分析を試み、地位評価の因果モデルを明確にする作業が急務であろう。

文 献

- 1) NHK世論調査部, 現代日本人の意識構造, 日本放送出版協会, 1985
- 2) 四国体育科教育研究会, 体育教師に関する研究 報告書, 1985
- 3) 富永健一, 日本の階層構造, 東京大学出版会, 1979
- 4) 富永徳幸, 体育教師の社会的評価に関する研究, 筑波大学修士論文, 1984
- 5) 細谷恒夫他, 教師の社会的地位, 有斐閣, 1956
- 6) 見田宗介, 価値意識の理論, 弘文堂, 1966, p.32
- 7) 森 孝子, 教科別教師に対する学生の態度調査, 国立音楽大学紀要, 16, pp.173-84, 1982